

保健・医療・福祉の このひとつきの動き

奥歯失うと アルツハイマー病悪化 広島大、マウスで実験

奥歯を失うと、これまで原因とされてきたたんぱく質の蓄積とは異なる仕組みでアルツハイマー病が悪化することを、広島大などのチームがマウスの実験で突きとめた。広島大が3日発表した。

認知症の1つのアルツハイマー病は、脳内にアミロイドβという異常なたんぱく質が蓄積することで症状が進むと考えられている。

広島大の赤川安正氏は、遺伝子操作でアルツハイマー病を発症するようにしたマウスに、暗い部屋に入ると電気ショックを受けることを覚えさせてから、左右の奥歯6本を抜いたものと残したものに分けた。約4か月後に調べると、歯を残したほうは7匹すべてが暗い部屋に入らなかったが、抜いたほうは10匹中6匹が入った。

どちらのマウスも脳内でアミロイドβが蓄積した面積に差はなかったが、記憶をつかさどる脳の海馬の細胞数は、歯を抜いたほうが少なかった。アミロイドβの蓄積とは別に、海馬の細胞が減ることで学習や

記憶能力が低下したと考えられるという。赤川氏は「かむことによる脳への刺激や脳の血流量が減った影響ではないか。今後、解明したい」と話している。

(7月5日付朝日新聞)

70～74歳医療費窓口負担、 来年度にも2割に

田村厚生労働相は9日の記者会見で、特例で「1割」となっている70～74歳の医療費窓口負担を法律で定められている「2割」に戻す時期について、「来年度も視野に入れつつ、これから議論をしたい」と述べた。

参院選後に与党と調整し、引き上げに伴う低所得者対策を検討する考えも示した。

70～74歳の窓口負担は、2008年に後期高齢者医療制度が始まった際、75歳以上と同じ1割に抑える特例措置がとられた。このため毎年約2000億円の財源が必要となっている。

政府の社会保障制度改革国民会議の議論では、医療費抑制の観点から、70～74歳の窓口負担引き上げを早期に実施すべきだとの意見が相

次いでいる。安倍首相も国会答弁で、引き上げを検討する考えを示していた。

(7月10日付読売新聞)

薬が効かない 新たな「殺人菌」 国境越えた医療で拡散

抗菌薬カルバペネムを分解する新たな耐性菌 CRE が、世界各地で急速に広がっている。多種類の菌を行き来する5つの遺伝子が元凶だ。このほど日本で初報告された新型耐性遺伝子 OXA48 をもつ肺炎桿菌は、新耐性菌の代表である。

カルバペネム分解遺伝子は少なくとも5種類見つかっている。腸内細菌がそのどれかをもつと CRE になるが、特徴が違う。名古屋大の荒川宜親氏(細菌学)は「種類が多いので検出が難しく、見落としやすい」と話す。

CRE に変化するのは、腸内に常在している平凡な大腸菌や肺炎桿菌だ。腸以外の臓器に移動すると、膀胱炎や肺炎などを起こすが、普段はおとなしい。

だが、いったん抗菌薬を使うと状況は一変する。腸内にいる「薬が効く」菌は死んでいき、CRE がはびこるのだ。そして肺炎や敗血症を引き起こし、便を介して他人にうつる。フランスでは3年前に CRE の院内感染が起き、7人中5人が死亡した。

国立感染症研究所によると、CRE が世界的に広がる背景には、外国で手術などを受ける医療ツアーの普及がある。英の感染研は、英国内の CRE 患者の多くは、インドやパキスタンで手術を受けた人や、その人と接触のあった人だと発表している。

医療ツアーがまだ一般的でない日

本は、先進国でほぼ唯一の「CRE 低汚染国」だ。しかし、海外で入院して帰国した人から見つかる例が増え始めている。

2012 年 5 月、80 代の男性がエジプト観光中に高熱を出した。現地の病院に入院し、数日後に国立国際医療研究センター(東京都新宿区)に転院。この時の検便から CRE が見つかった。

同センターの おおまがりのりお 大曲 貴夫氏は「海外で医療を受けた人は CRE をもっている前提で対応すべきです」と警告する。

現在、CRE によく効く薬はない。しかも、新規抗菌薬の開発は滞っている。製薬企業にとっては、開発の成功率が低く経済的に見合わないからだ。

幸い、日本ではまだ CRE 汚染は広がっていない。専門家は「監視、院内感染予防策や検出技術の向上・抗菌薬の適正使用といった基本を徹底すれば、封じ込めは可能です」と口をそろえている。

(7 月 12 日付朝日新聞)

風疹ワクチン不足 大人は接種中止の医院も

風疹の大流行で、関東地方を中心にワクチンが不足しはじめている。

自発的に予防接種を受ける人が急増し、例年の 1 年分以上が 1 か月で使われる事態が続いているためだ。

妊婦が風疹に感染すると胎児に障害が出る恐れがある。感染防止には患者が多い 20~40 代の男性への接種が不可欠だが、子どもへの定期接種を優先するため、大人への接種を断念する医療機関も出ている。

(7 月 12 日付読売新聞)

熱中症で搬送、 6 月は 4265 人 前年の 2.3 倍

総務省消防庁は 16 日、全国で 6 月中に熱中症で搬送された人が 4265 人いたと発表した。昨年(1837 人)の 2.3 倍となり、65 歳以上が 2108 人と約半数を占めた。死者は 4 人、3 週間以上の入院が必要な重症は 97 人だった。

都道府県別では、大阪が 362 人で最多。愛知の 254 人、兵庫の 230 人と続いた。

7 月に入ってから死者も増えている。東京都監察医務院によると、東京 23 区内の熱中症による死者は 6 日の梅雨明け以降、14 日までで計 39 人に達した。

39 人のうち 36 人が屋内で倒れており、1 人を除いてエアコンがないか、あっても使っていなかった。また、50 代の 3 人以外が 60 代以上だった。

都心の最高気温が猛暑日に迫る 34.9 度だった 12 日には、今夏で最も多い 15 人が死亡した。監察医務院は「今週はやや気温が下がっているが、引き続き注意が必要」と呼びかけている。

(7 月 16 日付朝日新聞)

新型出生前診断 大阪府立母子医療センターでも

妊婦の採血で胎児の染色体の病気が高精度でわかる新型出生前診断について、日本医学会は 19 日、大阪府立母子保健総合医療センターを新たに認定施設にすると公表した。

決定は 16 日付。これで同診断の実施病院は計 24 施設になった。

(7 月 20 日付読売新聞)

病気で休職後 4 割退職 がん・心の不調がやや高め

心身の病気で会社の休職制度を使った人のうち、4 割近くはその後退職していることが、独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査でわかった。とくにうつ病などの心の病は、再発する人が多い職場ほど退職する人の割合が高かった。

昨年 11 月の調査で、従業員が 50 人以上いる企業 2 万社が対象で、5904 社が回答した。

調査結果によると、1 か月以上連続して休める「病気休職制度」を 91.9% の企業で導入し、このうち 52.0% で過去 3 年間に利用者があった。利用者のうち、昨年 11 月の調査時点で 51.9% が復職し、37.8% が会社を辞めていた。がん、心の不調、脳血管疾患を患った利用者のうち退職した人の割合は 42~43% と、やや高めだった。

心の病は、再発する人が多い職場ほど退職率が高い傾向があった。9 割以上の利用者が再発した企業では「休職制度を利用した人の退職率が 80~100%」と答えた割合は 48.4%。一方、再発した人がほとんどいない企業では 17.5% にとどまった。調査担当者は「短時間勤務などで働き方を工夫し、再発を防ぐことが大切だ」としている。

非正社員の場合、そもそも病気休職制度を使えない企業が 48.5% にのぼった。逆に、非正社員も、正社員同様に休職制度を利用できる企業は 31.1% だった。

(7 月 20 日付朝日新聞)